

2015 年度の大きな成果として、産業情報研究所叢書第 12 巻「地域アイデンティティを鍛えるー観光・物流・防災ー」(畦地真太郎・米田真理・中垣勝臣 編著／成文堂／3,240 円(税込))を、2015 年 8 月 30 日に上梓した。これまで地域産業と情報に関わる研究活動による地域への貢献を行ってきた中、近年のプロジェクト研究の成果として、経営学部内の地域研究に関連する教員が力を結集し、成果を結実させたものである。人口減少が叫ばれる中、地域の産業や文化、地域自体を消さないためには「アイデンティティの確立が必要である」という主張を行っている。観光、物流、防災の観点から、地域文化や地域経済、情報工学や心理学まで援用することにより、立体的な切り口から、これからの地域に求められる立場やあり方を分析している。執筆者各位および編集・作業に当たった産情研所員はもとより、格調高い緒言を執筆し、編集の中核を担った中垣勝臣講師に特に感謝の意を述べたい。

叢書発行につながるプロジェクト研究については、本年度は萌芽研究に 2 件の応募があった。経営学科の戴秋娟准教授「日本企業の環境分野における CSR 活動に関する考察」と、経営情報学科の矢守恭子准教授「学生の自由な発想を育てるためハッカソンの実施とその成果」である。両研究の成果報告は、後に示す通りである。

2015 年 6 月 11 日には、瑞穂市より講師を招き、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」と地方経済システム RESAS に関する講演会を開催した。詳しくは報告書に記された通りであるが、朝日大学と瑞穂市の包括連携の中で、産情研が行うべき業務と立ち位置を確認した集いとなった。

本原稿執筆時には未開催であるが、2016 年 3 月 24 日には、第 2 回研究会として、トヨタ白川郷自然学校から講師を招き、経営学部授業「ホスピタリティ学」の実施と効果、教育と地域産業(エコツーリズム)の連携が果たす役割について議論される予定である。

2016 年 2 月 23 日には「岐阜地域産学官連携交流会 2016」に出展を行い、「みょうがぼち、冷やしたぬきそばの県内分布に関する研究」(担当者:畦地)をブース発表した。地域伝統食の掘り起こしと価値の再確認をテーマとしたポスターは関心を集め、様々な機関との連携が期待される結果となった。

本年度は、産情研の活性化を図るため、様々な企画が考案された。一方で、その全てを遂行できたわけではない。2016 年度においては、産業界(企業)からの研究やセミナー等の受け入れを含め、積極的な資金獲得活動を行いたい。並びに、本年度もある程度達成できた学部教育との協調を推進することも必要である。産業情報研究所室を利用した情報発信活動も本格化させる必要があるだろう。